

# 饗宴の杯に

(昭和二十三年寮歌)

中坪清八君 作歌  
堀井洵君 作曲

一

饗宴の杯に淡れゆく  
手稲の峰に今しばし  
追憶止めて涙する  
逝く水はやき三春秋の  
絵巻はやがて尽きざらん  
優しき薫香遺しつ

二

真理の道の彷徨に  
遊子は尋めぬ人性を  
真紅に輝く森蔭に  
梢火廻りて歌へども  
琥珀の酒を酌みしかど  
羸しものは何ならん

三

原始林の濃緑のまどろみに  
高夢は結びぬ先人の  
遺訓の蔭に泪あり  
孤雁一たび大地に啼きて  
驚き醒むる邯鄲の  
草野に夕陽は既に没つ

四

秋の哀愁は旅の子に  
ひとしほ沁みる夜半の月  
悲恋の苦悩胸に秘め  
北斗の光影に嘯けば  
若き情熱の高鳴りて  
凋落の世に響くなり

五

狂ふ吹雪に我が思索  
託して進む三百の  
児等の生命はみはるかす  
北溟の曠野にこだまして  
東の空は暁紅に染み  
高き理想の旭日は出でぬ

六

楡の鐘声に逝く青春の  
神秘を解かん花莖  
朝はろけき旅を行く  
郭公鳥よ永遠に  
黒百合咲ける石狩の  
汝が故郷を憶えよや